

拾

三年
 筆順 拾 拾拾
 オン シュウ・ジュウ
 クロ ひろろ

成り立ち



手の形をあらわした「手」と、「合」の音と「拾」とを組み合わせて作った字です。

「手が、ゆかやじめんの上にあるものと「合う」といういみの字で、「ひろろ」ことをあらわした字です。「も」の「ひろろ」には、そのものが「手と合う」ことがどうしてもひつようですね。

ジュウの音は、数字の「十」の音と同じですから、おもしろく書くばあいには、「金拾万円」というように「十」のかわりにつかうことがあります。

「合」は「△」と「口」との会意・形声字で、「口」の音が取られている。「拾」では「△」の音が取られている。「△」は「集」であるから、「手で集める」意味かも知れない。

使い方

▽このじょうたいを拾収するのは、ごみを拾収するようなわけにはいきません。とてもわたしの手にはおえません。

▽おとしものを拾得したときは、すぐにけいさつにとどけましょう。取得するとつみになります。

熟語例

▽拾収 (「こんらんしたじょうたいをうまくとりおさめる」といういみにつかいますが、もとは「おちこぼれているものを拾い収める」といういみのことばでした。)

▽拾得 (得 (4594) は「ものを手に入れる」といういみの字ですが、ここでは「拾」のいみをたすけているだけで、本来のいみはありません。したがって、たんに「拾う」といういみのことばです。

「拾ったものを自分のものにする」とは「取得」といって、「拾得」とくべつしています。)

終

三年
 筆順 終 終終
 オン シュウ
 フン おいわる

成り立ち



一年の「おわり」のさせつをあらわした「冬 (2022)」と、「糸」を組み合わせて作った字で、「糸の「おわり」といういみの字です。

ぬいものをしたとき、「おわり」のところを玉むすびにしてとめますが、その「むすび玉」を「終」という字であらわしました。

今では、糸にかんけいなく「ものごとの「おわり」をあらわすのにつかいます。

終

使い方

▽クリスマスがやって来ると、そろそろ一年も終わりです。すぐにお正月が来て、また、新しい一年が始まります。

▽学校から帰ると、宿題を終えてから遊びに行きます。

熟語例

▽終始 (始めから終わりまで、ずっと。「終始、試合をリードした」などというふうにつかいます。)

▽終業 (しごとや授業などを終えること。「終業式があって、通信簿をもらった」などというふうにつかいます。)

▽終点 (終わりの所。とくに、電車やバスなどの終わりの所を言います。「市役所行きのバスに乗って、終点まで行った」などというふうにつかいます。)

▽終了 (終わること。「準備はすべて終了した」などというふうにつかいます。)

▽有終 (終わりが有ること。終わりをきちんとすること。「有終の美をかざる」といえば、「終わりまできちんとやり通して、りっぱな成果をあげる」とです。)